

天正十八年（五九〇）二月、
堀尾金助は十八歳の若さで豊臣秀吉の小田原征伐に出陣し、
母は裁断橋で金助の無事を祈り見送りました。
しかし同年六月、金助は陣中で病死してしまいました。
金助の死を嘆き悲しんだ母は、我が子を弔うため私財を擲^{なげ}って、
金助との別れの場となった裁断橋をかけ替えました。
大口市にある堀尾跡公園には裁断橋が忠実に復元され、
大口市出生の母子の深い愛情物語として受け継がれています。

新能

新作能

裁断橋

令和5年
11月4日(土)

午後4時30分 開場
午後5時30分 オープニング
セレモニー
午後6時 開演

開催場所 花見橋南特設会場

丹羽郡大口町下小口六丁目150番
(雨天の場合:町民会館)

※演能中に雨が降った場合は、中止になります。

入場料 無料

観覧希望の方は、事前に配布する入場券が必要です。

観覧席 300席 (入場券必要)

入場券は10月開催の「大口にぎわい横丁」会場内で配布します。

配布場所 役場南ひろば
(丹羽郡大口町下小口七丁目167番)

(雨天時) 町民会館第一駐車場
(丹羽郡大口町下小口七丁目160番)

配布日時 第1回 10月20日(金)午後7時から
第2回 10月21日(土)午後1時から
第3回 10月21日(土)午後7時から

※各回100枚ずつ配布予定で、なくなり次第終了します。
※入場券は1人2枚までとします。

役場南ひろばにおいて、入場券が必要ない
大型ビジョンによる観覧エリアがございます。

◆主催/大口町

■お問合せ/大口町 まちづくり部
企業支援課 ☎0587-95-1623



新
作
能

東国方の僧が熱田神宮の参拝を思い立ち、東海道を旅して熱田の国、精進川の裁断橋のたもとにたどり着きます。

橋を渡り熱田の宿に入ろうとすると、一人の女性が現れ、欄干の擬宝珠を見て念仏を唱えて渡るよう声をかけます。

不審に思った僧が尋ねると、昔、十八歳で豊臣秀吉の小田原攻めに初陣としてこの橋から出陣した堀尾金助という者がいたが、兵糧攻めのため、長逗留の陣中で病死して屍で戻ってきたことを語り姿を消してしまします。

そこへ、昔裁断で追放されていた神宮の神職が戻り、里人と色々やりとりの末、神職は祝詞をあげ、里人は念仏を唱え共に裁断橋を渡つて行きます。僧は先程の女性が金助の母の霊と悟り、二人の菩提橋を弔います。すると、若武者姿の金助の霊が現れます。金助は、初陣の場に臨みながら一度も刃をまみえることもなく病死してしまつた我が身の無念さと思い、武門の家に生まれ初陣で手柄を立てたかつた願望のあまり夢の中で実際には出来なかつた敵との戦いの有様を見せれますが（この能の見せ場）、僧の読経と橋を渡る人々の念仏の声によつて二人の霊は有明の空に消えていくのです……。

この新作能の後場は、金助をシテではなく、ツレ役として登場させ、前シテの母を後シテとして登場させるところが斬新な演出となつています。

※出演者は一部変更となる場合があります。ご了承ください。

大口にぎわい横丁に
ついて